

# 遊歴雑記の記述にみる江戸期の風景観

The Edo-period Perspective of Landscape Viewing in the "Yureki Zakki"

尾藤章雄  
Akio BITO

# 遊歴雑記の記述にみる江戸期の風景観

## The Edo-period Perspective of Landscape Viewing in the "Yureki Zakki"

尾藤 章雄  
Akio BITO

### 1 遊歴雑記にみられる風景描写と本稿の目的

著者は遊歴雑記の記述に基づいた江戸期の景観研究を進めてきた。遊歴雑記とは、江戸の小石川小日向水道町（現東京都文京区小日向）にある生西寺の元住職、十方庵敬順（じっぽうあんけいじゅん）が1814（文化11）年に完成した地誌書である。遊歴雑記には同時期に出版された新編武蔵風土記稿など、いわゆる官製の地誌書と同様に、江戸周辺の名所旧跡の由来が詳しく述べられているほかに、実際に作者が逍遙（気ままな旅・散歩）と称してその場所を訪れ、地元の特産物や地元の人々から見聞きした内容などが克明に書かれている。一方で同時代の地誌書としては珍しく、作者の住居からその場所に至るまでの道すがら経験したこと、道中での心の動き、さらに目的地とした名所旧跡に到達し、そこで作者の目で見て感じ、抱いた主観的な思いが、忌憚のない筆致で記述されている。

作者は「日ぐらしの眺望雪見寺（初編中の76）」において「予が愛するものは天造の風色自然の景地たり・・・（中略）・・・愛すべきは作らずして天造の景望なることを」と述べ、遊歴雑記を執筆するきっかけとなった作者の逍遙は、この天造の風色自然の景地を自ら訪れることを第一の目的としていたことを明らかにしている。そして実際にその場所を訪れて作者が抱いた様々な思いは、必ずしも他の地誌書にあるような形式通りの堅苦しいものではない。さらに作者の十方庵敬順は江戸市中の寺の住職を務めていた経歴を持ち、当時の風流を解する雅人の代表とされる茶人でもあった。庶民の視点に加えて、雅人としての教養に基づいた視点を併せ持つ作者が、逍遙しながら主観の赴くままに記述した風景描写は、江戸期の人々の風景観を知る上で貴重な資料である。

本稿は、遊歴雑記の作者の逍遙の目的となった高い評価を得る風景描写に注目し、どのような風景が高い評価を得ていたのか、そして作者が実際に訪れて見たその場所の特徴、見え方は作者にどのようにとらえられたのかについて、風景を構成する要素を中心に明らかにしようとする。

分析に用いた遊歴雑記の原文は、釋敬順（1814）を所収した江戸叢書第3巻から第7巻までの全項目であり、閲覧は国立国会図書館デジタルコレクションを利用した。なお、初編のみを対象とした前稿までの分析においては、風景を示す類似の用語として風色、景望、風景が多く用いられ、その風景が高い評価を得ている場合には勝地、絶景、景地、美景が、また作者が抱いた主観を示す表現として面白い、奇妙（奇々妙々）、飽く事なし、いはん方なし、兎角の論なし、一品ありなどが用いられていることが明らかになっている（尾藤、2013、2014、2016）。

### 2 風景描写を含む項目の抽出

遊歴雑記は初編から第五編までの957の項目に分けて記述されており、各項目にはその内容を端的に示す項目名がつけられている。本稿では項目名に基づいて、風景描写を含むと思われる項目をあらかじめ抽出した。前稿までの分析では、初編に所収された項目で現在の東京23区内に位置する場所に限定して、風景が高い評価を得ていると判断される記述を拾い出す方法をとったが、このたびは遊歴雑記の全項目を対象とすることから、あらかじめ項目名を手がかりに絞り込みを行ったのである。

項目名の中に「風景」を含むものを数えると29、「景望」を含むものは22あった。このほかに「八景、拾景、景地、絶景」を含むものを加えると、「景」という用語を含む項目は全部で66あった。同様

に「眺望」を含むものも34あった。いずれもその記述には、その場所の風景が高い評価を得ていると判断される記述を含んでいた。そこで、風景描写を含むと思われる項目名として「景」「眺望」の二つを鍵とすれば、ほぼすべてが抽出できるものと考えた。この二つの項目数が全体に占める割合を算出すると、「景」を含むものは遊歴雑記の全957項目中6.8%、また「眺望」を含むものは3.6%を占めた。なお「榎戸綾瀬川筋舟中眺望の風景（四編下の36）」、「十條村西音寺の風景眺望（二編中の42）」の二つが、項目名に「景」と「眺望」の両方を含んで重複するので、全数は98（全体の10.2%）となった。

作者の十方庵敬順の逍遙が、前述のように天造の風色自然の景地を自ら訪れることが目的であったにもかかわらず、項目名に「景」「眺望」の二つを含むものが割合の上で少ないように感じられるかもしれない。しかし、項目名には含まれなくとも、遊歴雑記の記述には少なからず風景描写が含まれており、項目名による絞り込みは、特に風景描写を強調している項目だけを抽出したことになる。

なお江原（2019）は、遊歴雑記の全項目の地名あるいは地点名を手掛かりに、どの街道沿いの場所について記述されたものであるかを分類している。これによると、項目名に「景」を含むもの66のうち東海道の沿うものが23、水戸道12、川越道7、目白道4、奥州道3、以下甲州道、行徳道、秩父道、中山道が各2、岩槻道、青梅道、千葉道、中原道が各1、そしてどの街道にも該当しないもの、および江戸市中と判断されたものが5であった。同様に項目名に「眺望」を含むものは、「景」と重複する2項目を除いた32のうち東海道の沿うものが7、水戸道7、奥州道3、中山道、青梅道、川越道、秩父道が各2、岩槻道、大山道、中原道、目白道が各1、どの街道にも該当しないもの、および江戸市中が3であった。「景」「眺望」のいずれについても、東海道と水戸道に沿った場所が多く、この二つの街道沿いに作者の逍遙する頻度が高かったことを物語る。本稿では紙面の都合上「景」を含む項目だけを以下の分析の対象とした。

### 3 項目名の構成と視点場の分類

#### (1) 項目名にみる地名

遊歴雑記の「景」を含む項目名の構成にはいくつかのパターンがある。一つは地名あるいは地点名と、その場所にある寺社、渡しなどの施設名を組み合わせたものである。よく知られた川・山岳・寺社を挙げて地名を兼ねるものもある。地名あるいは地点名については十條村、我孫子の駅（宿場）、小石川、豊島郡下高田村、足立郡草加といった郡名、村名、宿駅の名称がある一方で、汐見坂、佃島海岸、將軍山などの名高い自然地名を用いたもの、長高野、向が岡、北條、小金ヶ原、すずめ浦など、詳しい記述を読まないといくこの地名が特定できないものもある。また、街道や川に沿う場合には道、筋が用いられ、川を舟で移動する場合には舟行、舟中、舟路などが用いられる。「葛飾郡堀江筋の海濱舟行」、「榎戸綾瀬川筋舟中」などがこの例である。道沿いに移動する場合には横見郡山路、土呂中島横須賀巡行の例のように、およその移動場所がわかるようになっている。さらに、「景」を含む項目名は末尾に景望（該当する項目数は22）、風景（同29）で終わるものが圧倒的に多いが、「松原二軒茶屋芙蓉峰の絶景」、「群馬郡室田の不動の奇景」など、すでに作者の主観的内容が込められたものもある。

#### (2) 項目名に込められた作者の風景観

項目名に八景、拾景、拾貳景を含むものは、一定の地域的広がりの中にある複数の場所についてまとめて記述しているので、守殿明神の拾景、武州金沢の八勝景というように広域な地域名と組み合わせられる。

この八景、十景、拾貳景の風景の捉え方は、中国の瀟瀟八景（しょうしょうはっけい）に基づくものが基本である。瀟瀟八景とは、北宋の文人画家の宋迪が創始したと伝えられており（京都国立博物館の瀟瀟八景図の説明より）、景勝地として名高い中国湖南省の洞庭湖周辺の景観を夜雨、落雁、晚鐘、晴嵐、暮雪、夕照、秋月、帰帆の季節や時間が異なる代表的な八つのシーンについて、いずれも四文字の漢語で記述したものである。我が国ではこの風景の捉え方が江戸期に広く知られるようになり、各地で数多

くの八景が作られた。

遊歴雑記の作者である十方庵敬順は、逍遙を続ける中で従前から知られている八景などを踏襲して紹介することはもちろん、自ら一連の優れた風景を見出した場合には、後世の風流を解する雅人のために書き置くのだとの主張とともに、新たな八景、拾景など提案をしている。例えば、「多摩郡拾貳景風土の辨（三編中の54）」では、寛政9年に藤忠休という人が提唱したという武蔵野八景を知った作者が、新たに四つの美景を加えて拾貳景としたい旨の記述がある。あわせて、（作者の住む）武州の地にも古跡絶景が多いにも関わらず、これを見つけ出す努力もしないで遠方の地の風景をめぐる人が多いことを嘆いている。作者は天造の風色自然の景地を自ら訪れるだけでなく、まだ知られていない風景を世に知らしめたいという意向を強く持っていたことがわかる。

また「拾遺高田の拾景（三編中の64）」では、武州豊島郡下高田村周辺にすでにある高田村十二景を詳しくなぞった後、「近辺にもろもろの古跡遊観の地所残りたる」として、新たに追補の十景を提案している。ここでは近年風景を愛せざる輩が多いことを嘆き「是調理を食て風味を辨えざるにひとしといはんか」と厳しい意見を述べている。さらに「能見堂の勝景の詩歌（五編中の17）」では「能見堂にあそばん人、能こころを留て風景を観見すべし、即遠近をふらめくはただ風色の勝景を穿ち、心眼を悦ばしめ天元の数を養ふの謂なれば、粗絶景の次第をしるし置もの也」と述べ、一連の高い評価を得る風景を、作者が八景などにして詳しく解説し、後世に残しておこうとする根源的な理由は、風景に隠された意味を正しく読み解き、多くの知識を醸成することにつながるからだと考えていたことがわかる。

### （3） 項目名からみた視点場の分類

項目名から視点場となっている場所を分類すると、寺社（17）が最も多く、次いで山（16）、渡し（場、口）（12）、海（8）、川（6）、橋（4）、沼（3）の順となる。作者の逍遙の目的地とされた場所は山、海、川といった自然的要素と寺社、渡し（場、口）、橋といった人文的要素のいずれか、あるいは双方を含む場所であったことがわかる。

ここで篠原編（1998）の景観把握モデルの概念に照らしてみると、項目名で示された地名あるいは地点名が、その風景を見る視点場（視点の存在する空間）である場合と、そこから見た主対象あるいは副対象（主対象はその景観の性格を規定し、ほかの対象を景観的に支配している対象、副対象はそれ以外の対象）である場合とに分けられる。すなわち、「十條村西音寺の風景眺望（二編中42）」は、西音寺から見た風景が描写されているので西音寺は視点場であるが、「本所亀有新宿の渡口風景（四編上の17）」は新宿にある渡し場の周辺の風景が描写されているので、新宿の渡口は主対象と解釈できる。項目名で示された地名あるいは地点名が、視点場であるか主対象であるかは記述からおおよそ判断できるが、街道や川を移動しながら記述されたものには、両者の判断がつかかねるものもある。

そのため本稿では以下の分析において、項目名だけでなく、記述を詳しく検討して詳しい視点場を推定することにした。ただし、瀟瀟八景の枠組みを踏まえて作者が言及している八景、拾景などについては、その視点場が一カ所に限定されない場合が多く、視点場と対象場との間の構図を検討する本稿の分析には適切でない。そこで、項目名に八景、拾景などを含むものを以下の分析から除外し、残る56項目を分析対象とした。

## 4 風景が高い評価を得ている場所の特徴（表1～表3）

「景」を含む項目のうちで、風景が高い評価を得ている場所の記述にはどのような特徴があるのかを、風景を構成する要素を中心に視点場とその場所からの構図、対象場の要素、そして高評価の対象とその表現という点から分類し、表にまとめたものが表1～表3である。以下これをもとに、各場所の特徴について述べる。

表 1 遊歴雑記において高い評価を得ている場所の記述（その1）

| 編 | 巻 | 番号 | 項目名               | 視点場          | 構図                            | 高評価の理由となる対象場の要素<br>(原文に忠実に要約)                                                                                   | 高評価の対象とその表現<br>(原文に忠実に要約)                              |
|---|---|----|-------------------|--------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 初 | 上 | 19 | 待乳山聖天の景望          | 待乳山聖天        | 三、四丈の高台<br>脇の茶店から眺望<br>川越しに見る | 隅田堤を人の行通ふ様 帆懸て舟の走る風情 綾<br>瀬川の土手 遠近の花もみぢ 菖浦浦賀から（中<br>略）品川芝浦行徳の浦まで見える                                             | 一望の中に有て風景言語に絶たり 一<br>箇の勝地ともいふべからめ 風色のお<br>もしろさ言語に述べがたし |
| 初 | 中 | 7  | 小石川牛天神の景望         | 小石川牛天<br>神   | 高台（牛天神）<br>から一望               | 飯田町から小川町神田橋の邇まで見える 人の往<br>来 夏は納涼 秋は月 諸方の紅葉 冬は横雪                                                                 | 風景いはん方なし 風色一入にして<br>いはん方なし                             |
| 初 | 中 | 22 | 三谷玉姫稲荷の景地靈<br>佛   | 玉姫稲荷         | 高台（稲荷）か<br>ら見晴らし              | 耕地 松杉 古樹の櫻 芝生 摘草する徒 田螺<br>拾ふ人 畦路を人の行通ふ人 菜の花 芽出し<br>の樹々 往業する人                                                    | 閑寂の勝地 風色の天然 眺望の面<br>白さ 景望いちいち兎角の論なし                    |
| 初 | 中 | 25 | 清土長田家林泉の景望        | 庭内の潭弦<br>亭   | 庭から一望                         | 臺 耕地 畦道を行通ふ人                                                                                                    | いちいち賞するに堪たり                                            |
| 初 | 下 | 38 | 眞崎の稲荷渡口の風景        | 渡し口          | 鳥居前から見渡<br>す                  | 墨田堤をちかふ人 耕地遠村の打晴て見える遠<br>山のかすめる 舟舷の蟹 藁屋 舟待せし人                                                                   | 風色又一品 古雅なり 風景の勝地                                       |
| 初 | 下 | 39 | 深川洲崎辨天の景望         | 洲崎弁天         | 波除堤の下通り<br>の茶店から眺望            | 房総の山々 行徳からねごだねの洲崎 芝浦から<br>品川 川崎の駅より横須賀まで見える 漁労する<br>舟 カメメや千鳥の餌をとる様 里童の干潟に遊<br>び狂ふ様                              | めづらしく一佳興たり 風色飽ざる                                       |
| 初 | 下 | 61 | 入間郡いさ沼の景望         | 沼の端          | 沼の端に敷物敷<br>いて眺望               | 沼の大きくて広い様 霞んで沼隈の限りがわから<br>ない様 清泉 村邑茂林 農人の行ちかふ風情<br>漁船が蟹互（がいこ）する容體（ありさま） 果<br>てしなき耕地                             | 絶勝の風景                                                  |
| 初 | 下 | 64 | 比企郡井草川渡口の景<br>望   | 渡し口          | 渡し口から川向<br>ふを眺望               | 河原につづく白砂や茂林の風情 森の間のみみじ<br>杉松に人の打乗て逆流を下る様                                                                        | 天造の風色 名譽の書工と云ども筆<br>を捨てつ めづらしくも面白く                     |
| 二 | 上 | 10 | 群馬郡室田の不動の奇<br>景   | 室田の不動<br>堂   | 不動堂前の谷川<br>から見る               | 荒澤 逆流岩にくだけ水音凄じい様 重山波濤の<br>ごとくつらなる様                                                                              | 景望奇々妙々                                                 |
| 二 | 上 | 13 | 安立郡草加の大橋の景<br>望   | 草加の大橋        | 大橋の上から眺<br>望                  | 川丈うねり曲がりて東流するの風情 果しなき耕<br>地 遠近の木々の落葉 長流 街道両側の松並木<br>やな打捨置る様                                                     | 風色は天然 風情ある 風景一品あ<br>りて目をなぐさめころを穩にす                     |
| 二 | 上 | 59 | 伊血子月岬山正泉寺風<br>景   | 正泉寺          | 臺上から眺望                        | 海越の月                                                                                                            | 風色言語にたゑたる 風景絶品                                         |
| 二 | 中 | 42 | 十條村西園寺の風景眺<br>望   | 西園寺の座<br>敷   | 六、七丈の崖上<br>の寺の座敷から<br>の眺望     | 目にさわるものなく 鳩ヶ谷から三河島の辺りま<br>で一望                                                                                   | 風色奇々妙々 絶景                                              |
| 三 | 中 | 13 | 秩父郡武甲山の景望         | 小石川水道<br>橋   | 遙か西の方武甲<br>山を見る               | 武州第一の高山武甲山 尖からずして極で高いの<br>で景山 夏木立の若葉                                                                            | 風色又面白く 美景 風光いはん方<br>なし 絶景                              |
| 三 | 中 | 22 | 磐の上の風景第貳拾番        | 荒川北縁の<br>臺   | 札所磐の上の奥<br>の院から見る             | 自然の平石 屏風を立しに等しき絶縁の石                                                                                             | 風景絶妙 不思議の勝地                                            |
| 三 | 中 | 41 | 荒川わたし場の光景         | 渡し場          | 河原から見る                        | 河縁に沿う芝原 夏草の花咲く風情                                                                                                | 風色又一品                                                  |
| 三 | 中 | 62 | 向が岡の風景            | 府中駅東         | 府中宿東に出た<br>茶店からの眺望            | 波濤の如く連なる山 遠きにもあらず又近きには<br>あらず稲毛領の山々見へる                                                                          | 風景奇々妙々 天造の絶景                                           |
| 三 | 中 | 65 | 不忍が池辨財天の景望        | 辨財天          | 池に突き出した<br>茶店からの眺望            | 根津の町裏より茅町のうら手山下のあなたまで見<br>える 池邊を往来する人々の風情 蓮花の咲き揃<br>ひの様                                                         | 風色いはん方なし 景色兎角の論な<br>し                                  |
| 三 | 下 | 2  | 上落合村おたき橋囃道<br>の風景 | おたき橋         | おたき橋からの<br>眺望                 | 大久保より四谷中野辺まで見える うねる坂道を<br>人が登る様 明神の森の木立の夕日がうつろふ風<br>情 川筋の渚の綺麗な様 長流のいざよき 鮎釣<br>らんと汀に敷物して水中を見入りたる人の風俗<br>耕地徒来する男女 | 目覚るこころ 又一品あり 風色天<br>然                                  |
| 三 | 下 | 12 | 大和田の風景兩吟歌仙<br>の一興 | 駅の西の出<br>はづれ | 駅から見る                         | 耕地（深田） 西の山々がなだらかな様 木立や<br>藁葺の風情 寺社 坂を下る人 畦路を馬引く農<br>夫 路を行ちかふ旅客の風俗 松杉の茂林<br>櫻椿咲く、菜畑のはなの盛なる様                      | 此地の風色絶品にして畫るが如く                                        |

表2 遊歴雑記において高い評価を得ている場所の記述(その2)

| 編 | 巻 | 番号 | 項目名            | 視点場        | 構図                  | 高評価の理由となる対象場の要素<br>(原文に忠実に要約)                                                                            | 高評価の対象とその表現<br>(原文に忠実に要約)               |
|---|---|----|----------------|------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 三 | 下 | 16 | 川越大仙波愛宕山の風景    | 愛宕の社       | 愛宕の社 三、四丈の東の崖際から眺望  | 廣さ二、三里四方にわたって見晴らせる耕地 社の樹石                                                                                | 絶景 天然にして面白し                             |
| 三 | 下 | 22 | 高麗郡入間河原の煎茶風景   | 芝野         | 芝野に楽座して眺望           | 綺麗な芝原 川上川下に河が溶る様 兩岸の木立 椿などの咲きたる風情                                                                        | 天然の風景奇々妙々にして言語に及びがたし                    |
| 三 | 下 | 26 | 横見郡山路の風景逍遙     | 観音堂から半路の道  | 道すがらの景望             | 山あり平地あり耕地あり村里あり ならかな山の形 兀山 松山 成景山がなだらか スミレ咲く風情 緋桃紅梅が真盛な山里                                                | 風色の面白さ 眺望も一入 眺望においては兎角の論なし              |
| 三 | 下 | 38 | 橋樹郡芝生村淺間山登臨風景  | 淺間宮        | 淺間宮社のある山上から眺望       | 渺々たる耕地 本牧の鼻及び本牧の弁天の洲崎まで見える 街道を往來する旅客の風體 馬に居眠れる人 竹輿にゆられて正體なき酔どれ 大音聲で嘶ながら連だて行く馬奴 裸身に箱を背負う金比羅参りの客 引もちぎらない道者 | 風景いふばかりなく 面白く 一風ありて猶面白し 眺望の風色一品なり       |
| 三 | 下 | 43 | 同郡箕崎の町々風景繁華    | 箕崎の町       |                     |                                                                                                          |                                         |
| 三 | 下 | 47 | 同郡花暮町の由來八景原    | 箕崎濱通り      | 十丈の高さの八景原の山上から眺望    | 潮水の色が藍の如し 橋 城ヶ島は花が一面に植わる様 春の花海水に映する風情                                                                    | 優に面白く 風景奇々妙々                            |
| 三 | 下 | 54 | 蘆名村の風景明谷村海濱逍遙  | 出茶屋        | 茶屋から眺望              | 田畑開き耕し牛牽いて刈草背負せた馬を追う風情 滄海 幾艘となく漁釣する漁船                                                                    | 一品ありて景望又面白し 風色いはん方なし 面白き奇々妙々たり 眺望いはん方なし |
| 三 | 下 | 69 | 神奈川經井澤海越風景     | 輕井澤の茶店     | 茶店から海上を眺望           | 近くも遠くもなくほどよい距離の本牧弁天の茂林 海濱へ出張し山々の裾の風色                                                                     | 風景言語に絶たり 面白さいはん方なし 奇々妙々たり               |
| 四 | 上 | 17 | 本所龜有新宿の渡口風景    | 新宿の渡し口     | 渡し口から兩岸を眺望          | 川筋の溶り 木立繁茂する様 渚の天然なる様                                                                                    | 綺麗 眺望いはん方なし                             |
| 四 | 上 | 19 | 下總國松任の驛樋の口景望   | 松任の駅の南裏の川岸 | 川岸から眺める             | 松任川の長流 村々の茂林 木立の中に藁屋の見える風情                                                                               | 又一品ぞかし                                  |
| 四 | 上 | 22 | 下總國南相馬郡布施村弁財天  | 弁天堂        | 弁天堂の北後ろの崖際から眺望      | 耕地を打越て見える渺茫たる河原 利根川長流の潔よき 取手の渡し 遠近の山々が見にさわるものなく見わたせる様                                                    | 絶景いはん方なし                                |
| 四 | 上 | 29 | 長高野の風色君島の景望    | 茶店 北条の駅    | 茶店から眺望              | 遠近の山々 村々 木立の風情 渺茫たる耕地 ならかな小田山の眺望                                                                         | 天然にして面白し めづらしく風色一品なり                    |
| 四 | 上 | 31 | 北條見晴の風景鯨の谿骨    | 北條の見晴らし    | 七つ石から眺める            | 土浦の海辺 遠近の山里 耕地 人の往來する様 一面の耕地 一面に黄色な茶園 畦道を往來する人の風情 耕地を打越て見えるならかな山口と山田山の青みたる風情                             | 風景飽事なし、一景地といふべし 風景の勝地                   |
| 四 | 上 | 32 | 逆川の風景筑波一の花表仁王尊 | 一の花表       | 出茶屋から見下ろす 二町目から見下ろす | 耕地 村々 山 川 すべて見える 諸々の山々                                                                                   | 絶景のいふべき様なし                              |
| 四 | 上 | 36 | 真鍋の里觀世音の藤原の風景  | 觀世音        | 觀音堂から見晴らす           | 土浦の町々及び耕地を見はらせる様 深田 筑波山 波濤のごとくつらなる山 渺茫たる耕地 海越しに平山 馬にまたがり坂を下る人 真鍋の町々の人の立集ふ風情                              | 風色飽かず 風景言語にたへたり 面白く                     |
| 四 | 上 | 38 | 河内郡牛久の沼の舟路の景望  | 牛久沼の舟上     | 沼の中流より振り返り見る        | 膳所の城の面影 沼通り 兩岸の風色                                                                                        | 風景奇々妙々たり 風色天造のままにして面白く                  |
| 四 | 上 | 42 | 渡場の風景青山村大釜の入江  | 取手の渡し      | 舟の上から眺める            | 川の水が常にうねりながら静かな様 水の色が天に接する様 夏は舟あそびで納涼 秋は舟中に月光の隅なきになくさみぬらん様 漁船に棹さして網打釣する風情 河原から遠近の山々が見える様                 | 風色言ん方なし 一品ありて面白き                        |
| 四 | 上 | 43 | 我孫子の驛子の権現の景望   | 手賀沼の縁      | さし出たる洲崎から眺望         | 一円に広がる沼 水隈なだらか 青草の碧い様 山や丘の間に遅桜椿など咲く風情 何千艘となく漁船の浮びたる様                                                     | 絶妙の風色 筆端にはのべがたし 風景一々面白く天然 眺望奇々妙々        |
| 四 | 上 | 56 | 葛飾郡堀江筋の海濱歩行の風景 | 堀江の洲崎      | 海上の舟から眺望            | 舟橋から(中略)寒川等の上總地の駅の裏手まで洲崎の辺より(中略)浦賀まで見える 男女の貝拾うふ風情 幾百人となく海濱にあそぶ様                                          | 一品にして景望また類ひなし。                          |



表3 遊歴雑記において高い評価を得ている場所の記述（その3）

| 編 | 巻 | 番号 | 項目名             | 視点場          | 構図             | 高評価の理由となる対象場の要素<br>(原文に忠実に要約)                                                                          | 高評価の対象とその表現<br>(原文に忠実に要約)                      |
|---|---|----|-----------------|--------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 四 | 中 | 20 | 六郷川の事實渡口の景望     | 六郷川の渡し口      | 渡し口からの眺望       | 川水際のうねり 筏が多数見える風情 水除堤の上に入が往来する様 夏木立の樹林の中に藁屋が見える様 舟待ちする人 川役所に輪を立てて人の列する様                                | 眺望いはん方なし 一風ありて珍し 更に飽事なし 天造の景望                  |
| 四 | 中 | 21 | 軽井澤海越の景望懐舊      | 軽井沢駅         | 出茶屋から景望        | 西南に見える山々 東南に見える川の留り 本牧の鼻 本牧の弁天が見える 高低極まりない山々 樹林繁茂する様 麦畑が黄ばんで見える様 藁葺きの中に瓦屋根の土蔵が見える様                     | 風景又あるべしとはおもわれざりき。一品ありて風情を添えたり                  |
| 四 | 中 | 23 | 馬入川高麗寺山の風景      | 馬入村の舟わたし     | 崖上から眺望 茶店から眺める | 水汀溶る様 川原が廣く蛇龍を伏たる風情 萱原の中に葭切の聲がする様 天然の樹林が繁る様 果てしなく広がる滄海 高麗寺山が尖っていない様 松の繁茂する平山 松の屈曲した天然の木立 蒼海の堂々たる波打際の風景 | 風色いはん方なし 風景天造 天然の木立の面白く 心穩にして面白き いはん方なし        |
| 四 | 下 | 36 | 榎戸綾瀬川筋舟中眺望の風景   | 榎戸から両國橋までの舟上 | 舟上から見る         | 鐘ヶ淵通りの夏木立 草の間に花の咲く風情 帆あげて走る舟が行ふ連様 岸のうねりし風景 堤を諸人の往来する風情 白鬚明神の森や待乳山 浅草寺の塔の九輪が見える様                        | 風景は奇々妙々たり 風色言語に絶たり                             |
| 五 | 上 | 11 | 箱根宿川田が湖水の景望     | 権現坂          | 権現坂から見る 旅館から眺望 | 真正面に芙蓉峰が見える 湖水の青さ 山の樹木のむら立ちし風情 禿山のなだらか 湖汀の溶る水隈の綺麗なる様                                                   | 風色奇々妙々にして面白く 絶景更に賞するに余言なし                      |
| 五 | 上 | 14 | 松原二軒茶屋芙蓉峯の絶景    | 松原二軒茶屋       | 二軒茶屋から見る       | 富士山に並んで二三丈も低く山形がなだらかな足高山 富士山の頂上に雲がかかる風景 砂原に小松が繁茂して屈伸する様                                                | いかんとも賞し難し 眼前なれば眺望に飽事なく 面白く見洩さじと目を休むるの際なく       |
| 五 | 上 | 16 | 薩埵峠の絶嶮芙蓉の景望     | 薩埵峠          | 薩埵峠から振り返り眺望    | 芙蓉峰が目障るものなく正面に見える 快晴で雲がなく白妙の頂は青天に一入際立っている 愛鷹山もつらなり見える                                                  | 風色奇々妙々にしていはん方なし                                |
| 五 | 上 | 19 | 駿府二丁町阿部川筋の景望    | 阿部川筋         | 川を渡る連合から四方を顧みる | 川筋の溶る様 水隈の清き様 夏木立 兩岸の新樹が繁茂する様 地龍が臥したような様                                                               | 水隈の様も珍しく                                       |
| 五 | 上 | 22 | 遠州池田の里の懐古天龍川の風景 | 天竜川          |                | 兩岸の風色 水隈の風情                                                                                            | 天然にして兎角の論なし                                    |
| 五 | 上 | 24 | 汐見坂の風景吉田川の大橋    | 汐見坂から登る峠     | 峠から景望          | 芙蓉峰                                                                                                    |                                                |
| 五 | 上 | 26 | 土呂中島横須賀巡行片部の風景  | 土呂村          |                | 松山あり村あり田あり畑あり 澗水を堰留て飛泉 中路を流る様                                                                          | 風色替りて又面白く                                      |
| 五 | 上 | 33 | 鳴海吸金船御堂の景望      | 問屋場の彼方       | 鳴海の駅から竹輿に乗って眺望 | 尾濤の連山が波濤の如く見える 遙かに霞む風色 深田の苗代の青みて生立たる様 田打畑耕す風情 渺々たる滄滄海                                                  | 風色は得もいはず、詩歌の媒にして面白く 目に障る物なく 風景奇々妙々たり           |
| 五 | 上 | 45 | 是源寺の由來吸道の風景     | 是源寺          | 畦道から見る 茶店から見る  | 岡崎の櫓が雲間に聳える様 林登の繁茂せし風情 山々の波濤の如く連る様 藁々と草の青き様 兀山の獨立して見える様 渺々と打晴し耕地 青みたる連山                                | 風色天然にして奇々妙々たり 景望に飽ざるの土地たり                      |
| 五 | 上 | 50 | 吉良發駕土地の名残の風景    | 中島の先         | 座敷から見る         | 近く又は遠く高き低く見える連山 茂林の間に藁屋瓦葺に見える様 路傍の男女の来刈わざ                                                              | 優に面白く                                          |
| 五 | 上 | 58 | 廿六夜の舟行狼煙之景      | 牛込からの舟       | 永代橋横堀の舟から見る    | なまめきたる少婦が舟を眺望する立姿                                                                                      | 又一風といふべし                                       |
| 五 | 中 | 17 | 能見堂の勝景の詩歌       | 能見堂          | 能見堂から眺望        | 雲の中で霞む遙かな山々の風情 汐波海士 湖水に差し出る辨天鳥 旅人の男女の逍遙する様 浦賀より鎌倉山まで続く遠近の連山                                            | 絶勝の風景面白き事言語にたえて更に酔るが如し 風色一々言語に絶し 眺望の面白き事いはん方なし |
| 五 | 下 | 1  | 駿州龍花寺芙蓉の景望      | 龍花寺          | 龍花寺から眺望        | 海上を隔てて正面に見える富士山 遠からず近からず正面に見える様海 耕地貧村 人の往来する様 農夫の田植る様                                                  | 一瞬千里 風色いかんともいづくしがたく嬉しさいふばかりなし 一品にして又面白し        |
| 五 | 下 | 32 | 葛飾郡新宿の駒川治いの風景   | 新宿の駅         | 茶店二階から眺望 見下ろす  | 村々の夏木立せし青葉 藁屋の棟が見ゆる様 映山紅の花 楓の芽吹 黄なる山吹の花 うねる河水の風情 舟人の箕笠着たる様 旅人の雨を忍び忍び便舟する姿                              | 風色天然にして奇々妙々たり 面白く書くともいがか此景色に及ばん                |

### (1) 風景描写の視点場

視点場となっているのは(1) 周囲よりも高い場所、(2) 開けた場所のいずれかであり、どちらも広い範囲を見渡せる場所である。このことは遊歴雑記の風景描写において多くの項目に共通する。周囲よりも高い場所として選ばれているのは、山(山に登る、あるいは下る途中の道を含む)、高台、崖上、坂道、川沿いの堤の上などであり、特に山については具体的な高さを明示した例は少ないが、高台については周囲との比高が三〜四丈(およそ9〜12m)〜六九丈(およそ200m)のものまで様々であり、必ずしも比高の大きいものばかりではない。これら高台の上に鎮座する寺社の建物とそれに付属する堂や庭、寺社内にある茶店が視点場となっているものが多い。

開けた場所として視点場に選ばれているのは、海辺や沼のほとり、幅の広い川岸、渡し場、川を行く舟の上など水辺に多くなる。また街道筋で町家のない所、両側に耕地が広がるような場所も多い。見渡す際に「目に障るものなく」という記述が多く見られることからわかるように、視線を遮るものがなく、広い範囲が見渡せることが重視されている。

### (2) 視点場からの構図

上記の(1)(2)に関わらず、視点場から広い範囲を見渡すという構図が多い。海上など広範囲が見渡している場合には、記述の中で「見晴らす、眺望する、一望する」の表現が使われ、この場合には特に視点場から見た各方向に、どのような具体的な要素が見えるのかが克明に記述される。「社内尤廣く東南北の三方の耕地を見晴らし(初編中の22)」「社内又狭からず、南は飯田町より小川町神田橋の辺まで見晴らし、又西の方は目白臺、早稲田、高田、大久保の辺より・・・(初編中の7)」のように方向ごとに見えている地名を書き連ね、見えている具体的な範囲を証拠づけている。

高台以外の視点場から町屋など限定された範囲を見る場合には「見る、眺める、景望する」などに続いて見えている建物の名称、人の振る舞いをこと細かに挙げていくものが多い。これも視点場の位置と、見えている主対象、対象場の個々の要素を追うことで見えている範囲を明示している。

### (3) 高い評価の理由となる対象場の要素

高い評価の理由となる対象場の要素を分類すると、山(連山)が36(別に芙蓉峰4)と多く、川(うねり、川原、長流)は合わせて21、湖沼(青さ、綺麗さ)は11、海(海の青さ、渚の綺麗さ)は6であった。次に木立・茂林(森、樹木)は23(別に松杉で7)、花(櫻・菜の花・椿・紅葉)は19であった。人文的な要素では耕地(深田)が最も多く24、ほかに芝生と芝原も3あった。村と藁屋が15、町家が4と続く。人の振る舞いについては、往来する人についての記述と、人の営みについての記述に分けられるが、街道・堤・畦道における人の往来が19、田を耕す・網を打つなどの労働、そして舟を待つ・散歩する・立ち集う・子供が遊ぶなどの日常的なものが14であった。

作者の風景描写は、山と水辺、樹林や花といった遠近に見える自然的要素、近傍に見える農地と村・町家などの人文的要素、そしてそこに様々に展開する人の振る舞い、という三つの枠組みの組み合わせから構成されていることがわかる。当然ながら山は遠望、海と川は海辺や川岸からの遠近の眺望、そして人の振る舞いはその詳細が把握できるほど間近に見られる要素であり、その意味からこの三つの要素は風景の遠近という点を意識しているといえる。

一方で花として挙げられている要素には櫻、菜の花、椿などの春に咲くものが多いが、もみじ、月、積雪などの要素を挙げることは、同じ視点場からの風景にも季節的な違い、うつろいがあることを想起させることによって、その場所が通年にわたり高い評価を得ていることを示唆し、風景の相対的な価値を高めることに貢献している。

木立・茂林は村や農村と一緒に記述されるが特に松と杉が特筆され、松の枝振り(屈曲の有無)については細かな記述がみられる。江戸期の茶の文化、日本庭園における枯山水など、文化文政期の華やか



な庶民文化の中から特に珍重されるようになった松を特筆することで、村に付随する人手の加わった林であることを示唆し、それが農村風景の中でひときわ目立つアクセントとして評価されていることも指摘できよう。

#### (4) 対象場に挙げられた要素にみる順序・配置

高い評価を得ている場所についての風景描写には、記述されている要素間の順序、配置に一定の特徴がある。高い場所から遠くの山々が連なる様子を見渡した後に、眼下に見える耕地、あるいは櫻や菜の花といった植生を追うという構図、あるいは、見晴らしの開けた海浜において遠方の岬や山などを細かく追った後に、間近で漁労をする人や干潟で遊ぶ童を追うという構図である。

これは、自然的要素の中でも比較的大きなスケールで広がる、背景としての要素（副対象）と、近傍に見られる耕地や花などの小さなスケールで見られる主対象とを重層的に示し、自然的要素の奥行きを感じさせる対比ということもできる。また、自然的要素の雄大さ、視野に占める広さ・大きさに対して、相対的に小さな、そして多様な人々の振る舞いという、自然—人文の異なる要素間の大小の対比という解釈もできる。

またこの後者の場合、主対象となる自然的要素が先に、副対象となる人文的要素が後に記述されるという順序が一般的である。あくまでも大→小というクローズアップの視点が、風景描写の基本になっているのである。

また、高い評価を得ている場所の記述される要素には、それぞれ一定の傾向があることもまた明らかである。例えば山に関しては、芙蓉峰など独立して名高い山を高く評価する一方で、遠方に背景として見える山々は、連なって幾つもの山が見える、山容がなだらかであることが特に評価につながっている。「波濤のように連なり」「山形なだらか」という記述がそれを証拠づける。

川では特に流れがうねり、逆巻き、早瀬・滝を作るなどの特徴ある流れが評価につながる。静かにゆったりと流れる利根川など長流も評価されるが、珍しい流れ方をする場所の方が珍重される。同様に海や川の中に変わった形をした石がある、海中の小山に枝振りのいい松があるなど、珍しい要素の組み合わせも高い評価を得ることに貢献している。

近景の中でよく記述される櫻、ツツジ、菜の花、蓮華など身近な草木類は、特に春を中心とした花の咲く様子が描写されている。もみじ、積雪などの記述もあるが、季節の上では春の風景が何よりも高い評価を得ていることが明らかである。

一方で人の振る舞いに関しては、人の往来が盛んであることが求められる。市中から離れた寺社などで人が訪れない寂しい場所は、良い風景の場所なのに訪れる人がわずかで残念という筆致が多い。繁華な江戸市中に住む作者にとって、多くの人が行き交う、訪れる場所こそが望ましい場所なのである。作者が逍遙の目的とした、評価の高い風景が存在する場所には、多くの人が訪れるべきであるとする価値観に基づくともいえよう。多くの人が「行きちがふ様」が対象場の要素として多数挙げられていることはこれを証拠づける。

さらに主対象・副対象の見え方について「近すぎず遠すぎず」という記述がみられる。視点場と対象場との間には、作者の考える適切な距離の概念が存在し、これが見え方を決定づけ、評価につながる条件となっているのである。

### 5 高い評価を示す表現

表1～表3に示したように高評価の対象を示す表現は多岐にわたる。風色が37と最も多く、風色の面白さと続く表現がそのうちの18を占める。風色とは景色、眺めのほかに「ありさま」という意味を持ち、面白き(さ)は古語で趣がある、風流であることを意味するので、対象場に挙げられた個々の要素の「ありさま」そのものに特に趣がある、風流であることを評価している。風色の天然、天造の風色

など特に作者にとって重視される、人手の加わっていない自然のありさまに限定する場合もある。

次に多いのは風景(17)である。風景は目の前に見えている眺めという意味でこれに続いて言語に絶たり、いふばかりなくという表現が続くと、視点場から目の前に見えている眺めが特別に優れていると評価していることになる。

同様の表現に眺望(6)があるが、個々の要素のありさまと、見えている眺めのどちらが評価の対象となっているかで微妙な違いがある。同じ点から景地、勝地、絶勝などは、主に対象場の要素が優れていると評価していることになるが、絶景、美景は風景の意味合いを持ち、視点場から見えている眺めの方を評価する場合に用いられる。

一方で多用されているのは風色あるいは風景に続いて奇々妙々という表現で15ある。これは見えている眺めが特に珍しいことを意味し、その風景の希少価値の故に評価が高いということである。自然的な要素では変わった形をした石、はげ山の存在、山の連なる様子、人文的要素では筏が逆流を下る様、沼に多数の舟が漁労する様などが該当しており、必ずしも現代的な意味合いでの奇妙という否定的な含意はない。

## 6 おわりに

本稿は、遊歴雑記の作者の逍遥の目的となった高い評価を得る風景描写に注目し、どのような風景が高い評価を得ていたのか、そして作者が実際に訪れて見たその場所の特徴、見え方は作者にどのようにとらえられたのかについて、風景を構成する要素を中心に視点場とその場所からの構図、対象場の要素、そして高評価の対象とその表現という点から検討した。

その結果、評価の高い場所の風景描写は、山と水辺、樹林や花といった遠近に見える自然的要素、農地と村・町家といった近傍に存在する人文的要素、そしてそこに様々に展開する人々の振る舞いという三つの基本的な枠組みから構成されていること、その記述には一定の順序があり遠近、そして大小の対比という構図が多く用いられていることが明らかになった。

さらに風景評価の表現は多岐にわたるが、風色、すなわち要素自体のありさまが評価の対象となっている場合と、風景、すなわち視点場から見える眺めを評価する表現とが使い分けられていることも明らかになった。作者によって高い評価を得た場所については、その対象場に存在する要素のありさまと、その見え方に作者の価値観に基づいた一定の枠組みがあり、これに合致する場所が選ばれていたのである。

このたびは「景」を項目名に含むものだけを対象として分析を試みたが、同様に「眺望」を含む記述についても、何らかの共通点や相違点などが見いだせないかについて検討を進めたい。

## 参考文献・資料

- 江原暉将,「遊歴雑記 目次(道順)」, [www.ne.jp/asahi/eharate/eharate/youreki\\_zakki\\_mokuji\\_michijun.htm](http://www.ne.jp/asahi/eharate/eharate/youreki_zakki_mokuji_michijun.htm) (2019/09/08 閲覧), 2019
- 釋敬順,「十万庵遊歴雑記」, 江戸叢書刊行会編, 1916,『江戸叢書 第三卷～第六卷』, 1814  
(国立国会図書館デジタルコレクション <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/952977>  
～ <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/952981> 2019/09/10 閲覧), 2019
- 篠原修,「景観把握モデル」篠原修編, 1998,『景観用語辞典』彰国社, 30-31, 1998.
- 尾藤章雄,「遊歴雑記」にみる江戸茶人の風景観 —風景の復元による地理学的解析—. 山梨大学教育人間科学部紀要, 15 巻, 11-16. (DVD), 2013.
- 尾藤章雄,「遊歴雑記」にみる江戸の眺望景観 —景観記述と地形条件に基づく地理学的分析—. 山梨大学教育人間科学部紀要, 16 巻, 141-148. (DVD), 2014.
- 尾藤章雄,「文化文政期江戸市中の眺望景観についての「遊歴雑記」と「江戸名所図会」の比較考察. 山梨大学教育学部紀要, 25 巻, 93-100. (DVD), 2016.